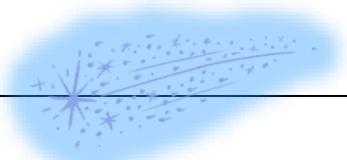


ふたご座流星群を見よう！



<ふたご座流星群>

12月13日から15日にかけて、毎年たくさんの流れ星を見せてくれる「ふたご座流星群」がやってきます。「しぶんぎ座流星群」や「ペルセウス座流星群」とともに三大流星群の一つとしても有名です。

今年のふたご座流星群は、月が明るく輝くので観察の条件は、あまりよくありません。しかし、15日の朝4時が、流星群のピークですので、14日の深夜から15日の明け方にかけて流れ星が多く出現しそうです。

15日午前0時の夜空



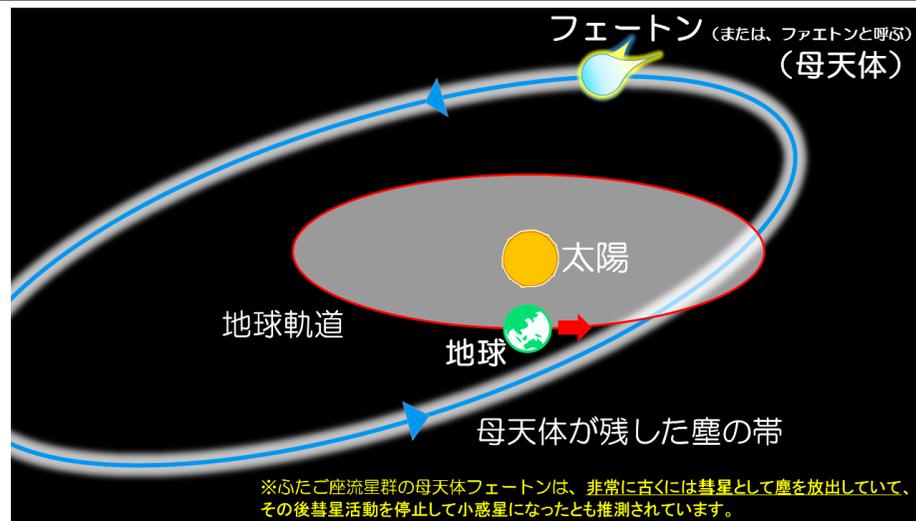
上図は15日午前0時の星空です。“南東”にふたご座が昇ってきています。オリオン座の明るい星たちを目印に東方向を見上げると「ふたご座」を見つけられます。並んだ明るい2つの星がふたご座の“ポルクス”と“カストル”です。白く輝く“カストル”の近くに、ふたご座流星群の「放射点」があります。

流星群の流星は、放射点を中心に放射状に出現します。つまり、夜空のどこでも流星は出現します。でも、周りをキョロキョロしてしまうと流星を見逃してしまいます。1つの場所を決めたら、根気強く1点を眺めてくださいね！

さあ、冬の夜空に願い事をしに出かけてみませんか！？ レッツゴー♪

<流れ星って…！？>

流れ星は、宇宙にある塵^{ちり}が高速で地球の大気とぶつかって光り出す現象です。特に明るい流れ星は”火球”と呼ばれます。そして、大きな火球になると燃えつきずに地上に落ちてくることがあります。これが「隕石^{いんせき}」です。



<流れ星のもと”塵”はどこからくるの！？>

流れ星は宇宙の塵^{ちり}だと言いましたが、いったいどこからやってくるのでしょうか？実は、流星群には塵を運んでくる”彗星^{すいせい} (ほうき星)”と呼ばれる星が存在します。この彗星が通った後にはたくさんの塵がばらまかれています。そこに、私たちの暮らす地球が飛び込んでいくと一度にたくさんの塵が地球の大気に入ってくるためにたくさんの流れ星、つまり流星群となって見えるというわけです。

<観察のポイント>

- ◆あきらめずに決めた場所をじっくり観察しましょう！
- ◆肉眼で一方向を観察しましょう！
- ◆できれば街灯かりの少ない場所を選んで観察しましょう！

※小・中・高校生のみなさんは必ず大人のひとと一緒に出掛けましょう。

